

男性が家事・育児等に参加することは女性活躍の観点からも重要であるため、平成27年12月25日に閣議決定された「第4次男女共同参画基本計画」においても「男性中心型労働慣行等の変革と女性の活躍」という章が新たに立てられ、「男女共同参画に関する男性の理解の促進」の具体的な取組が盛り込まれた。計画では「6歳未満の子供を持つ夫の育児・家事関連時間」を、平成32年までに「1日あたり2時間30分」にすることを成果目標としている。(平成28年社会生活基本調査では83分)

また、男女共同参画会議「男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会」が本年3月にまとめた報告書においても、「男性の暮らし方・意識の変革による家事・育児等への参画拡大」に向けて「様々な媒体を活用した広報の展開」や「男性の家事・育児等への参画機会の創出」に取り組むことが提言された。

さらに、本年6月6日に「女性が輝く社会づくり本部」において決定された「女性活躍加速のための重点方針2017」の中でも、「男性の暮らし方・意識の変革」として、「男性の家事・育児等への参画についての国民全体の気運醸成」を行うこととしている。

「男性の家事・育児参画コンセプトポスター」作成・配布

男性の家事・育児参画の現状に対する認識を高めることを目的にコンセプトポスターを作成。行政トップ等の意識改革、率先した施策実施を促す為、各自治体や男女センター等に配布。

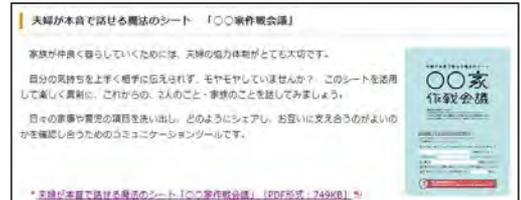


「夫婦が本音で話せる魔法のシート ○○家作戦会議」作成

若年世代の夫婦を対象に、家族のライフプランニングを通して家事や育児のシェアを考えることを目的としたコミュニケーションツール「夫婦が本音で話せる魔法のシート ○○家作戦会議」を作成・公表。本ツールを活用したワークショップの実施やメディアでの展開も実施。シートはホームページからダウンロード可能とし、誰でも自由に活用できる。



ワークショップの様子



ホームページ

「^{はん}おとう飯」始めよう」キャンペーンの実施

今年度より、子育て世代の男性の家事・育児等の中でも、料理への参画促進を目的としたキャンペーンを開始。

【おとう飯(おとうはん)とは】

男性が料理をするにあたっては、知識や技術がなくて自分には作れない、家族のために作る料理は栄養バランスや盛り付けなどに気がつかない立派でなければいけない、料理を作ってみたものの家族に不評だったため作るのをやめてしまった等、技術的、心理的ハードルがあると思われる。そこで、これまで料理をしていない、料理をしたことはあるものの作るのをやめてしまったという男性の料理参画への第一歩として、簡単で手間を掛けず、多少見た目が悪くても美味しい料理を「おとう飯」と命名した。

展開施策

おとう飯大使任命式



石橋尊久(いしばし たかひさ)

1975年生まれ
よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属。2002年デビュー。お笑いコンビ、イシバシハザマのボケを担当。デビュー前は、イタリアンレストランでコックの経験がある。

男性の料理機会・レシピ提案

祝日や国民的なイベントを、男性の料理参加機会の好機と捉えた訴求をホームページやSNSを中心に実施。



民間連携施策

食育イベントとの連携

「第12回食育推進全国大会 in おかやま」(7月1日(土))のキッチンステージにおいて、おとう飯大使による、男性の料理参画を目的とした「おとう飯」の実演イベントを実施。



プレミアムフライデーとの連携

9月29日(金)「肉の日」にプレミアムフライデー推進協議会が実施した『プレミアムフライデー収穫祭』とのタイアップイベントを神奈川県内のスーパーで実施。



拡大施策

「おとう飯」サポーターの募集 都道府県知事をはじめ、自治体トップに参加を募っている。



大森雅夫・岡山市長 鈴木英敬・三重県知事 伊藤徳宇・桑名市長

金坂昌典
大網白里市長

関口芳史・十日町市長

※平成29年11月1日時点

その他

○「おとう飯」ロゴの民間使用

ホームページから申請すれば自由に使用可能

○各自治体への「おとう飯」キャンペーン活用の働きかけ

各地の男女センターでの男性向け料理教室の実施、地元民間企業との連携施策実施等を要請

○おとう飯大使・石橋尊久さんのSNSでの情報発信